

長崎県内の女性の身体的不調に関する調査

— (その2) 年齢階層間差について —

大石 和代¹ 宮市 和子¹ 加藤奈智子¹ 古田 真司²

要 旨 女性の身体的不調の訴えの年齢階層間差を明らかにするために、長崎県在住の20歳代から50歳代の健康婦人1,102人を対象に、「冷え性」の自覚や、自律神経系の症状を中心とした不定愁訴および月経周期にともなう不定愁訴等について自記式アンケート（無記名）を行なった。対象を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代の4つの年齢階層に分け比較した結果、冷え性の割合、医療機関受診率、月経周期の異常率、月経中の不調の訴え率で、年齢階層間に差がみられた。また、自律神経系愁訴の訴え率では年齢階層間に差は認めなかったが、愁訴の内容には大きな差が認められた。

長崎大医療技短大紀7:69-76, 1993

Key words : 長崎県, 健康婦人, 不定愁訴, 年齢階層間差

I 緒 言

我々は前報¹⁾で、長崎県内の女性の身体的不調について、主にその地域差の検討を行なった。そのなかで、地域ごとに若干の年齢分布の違いが見られたので、調査対象とした10歳代から50歳代の女性のうち、その中心的な年代である25歳から44歳に限定して分析を行なった。その結果、離島地区で胃腸系愁訴を中心とした訴えが多く、長崎市内では全身性愁訴を中心とした訴えと月経中の愁訴が多いことがあきらかとなった。しかし、長崎県全体で見ると、地域の違いよりもむしろ、それぞれの年齢階層ごとに見た身体的不調の訴え率にかなり差が見られることが予想された。そこ

で本報では、今回集計した長崎県内の全データを年齢階層別に見ることで、その年代ごとの女性の身体的不調の違いを明らかにし、今後の女性の健康問題を考える上での有用な資料を提供する目的で分析を行なった。

II 研究方法

長崎県下の主に20代から40代を中心とした健康な地域婦人を対象に、いわゆる「冷え性」の自覚や、自律神経的な症状を中心とした不定愁訴の有無、月経周期、さらには、月経前あるいは月経中の症状や仕事の内容、勤務の形態と就労に関する具体的な状況などについて自記式アンケート（無記名）を行なった。実施期間は1992年3月から5月であった（詳

1 長崎大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻

2 愛知教育大学

細は文献1を参照のこと)。

回答のあった1,113名のうち、今回は、年齢階層別に分析するため、20歳未満の11名および年齢不詳の1名を除いた1,102名を分析対象とした。その職種は、事務、販売、技能系など様々で、自営や農業、パート労働者、学生、主婦なども含まれている。自律神経系の不定愁訴に関しては、阿部ら²⁾がCMIを参考として選んだ43項目について調査した。そのうち11項目以上を訴えたものを「訴えの多い者」とした。

月経周期は日本産科婦人科学会に従い、周期25日～38日で周期日数の変動が6日以内の者を正常とした。

月経前と月経中の不調(月経前緊張症、月経困難症)に関しては、いくつかの症状の有無を尋ね、たとえいくつかの訴えがあっても、ふだんと変わらないものは「不調症状なし」とした。また、それらがつらいと感じるもの(我慢している)は「軽い不調」、薬などを使用したり寝込んだりすることがあるものを「重い不調」とした。

表1 対象者の年齢階層別人数

1)	20～29歳	250名	(22.7%)
2)	30～39歳	354名	(32.1%)
3)	40～49歳	399名	(36.2%)
4)	50～59歳	99名	(9.0%)
<合計>		1102名	(100.0%)

注) 20歳未満の11名および年齢不詳の1名を除く

表2 年齢階層別に見た結婚の有無

		結婚している割合	
1)	20歳代	30.9%	(n=249)
2)	30歳代	91.2%	(n=354)
3)	40歳代	93.7%	(n=399)
4)	50歳代	97.0%	(n=99)

注) 無回答 1

表3 年齢階層別に見た子供がある人の割合

1)	20歳代	23.4%	(n=248)
2)	30歳代	88.7%	(n=354)
3)	40歳代	90.9%	(n=396)
4)	50歳代	98.0%	(n=99)

注) 無回答 5

表4 対象者の職業

	常勤	自営・農業	パート	無職	合計
1) 20歳代	194(77.9)	8(3.2)	11(4.4)	36(14.5)	249(100.0)
2) 30歳代	128(36.3)	50(14.2)	52(14.7)	123(34.8)	353(100.0)
3) 40歳代	160(40.6)	85(21.6)	62(15.7)	87(22.1)	394(100.0)
4) 50歳代	17(17.3)	27(27.3)	12(12.2)	42(42.9)	98(100.0)
<合計>	499(45.6)	170(15.5)	137(12.5)	288(26.3)	1094(100.0)

注) 無回答 8、数字は人数、()内は%を示す。

Ⅲ 結果

対象者の年齢階層別人数を表1に示した。40歳～49歳が399名と最も多く全体の36.2%を占め、次いで30歳～39歳が354名(32.1%)、20歳～29歳が250名(22.7%)となり、50歳～59歳のものは99名(9.0%)と少なかった。

年齢階層別に見た結婚の有無、子供がある人の割合を表2、表3に示した。年代別に見ると、当然ではあるが、30歳代、40歳代、50歳代で結婚している割合が高く、子供がある人の割合も高くなっていった。

対象者の職業をみると、20歳代に常勤の割合が高くなっていった(表4)。

年齢階層別に見た主な身体的不調を比較したのが表5である。冷え性の割合(「冬のみ冷える」と「冬以外も冷える」の合計)は20歳代66.0%、30歳代67.0%、40歳代54.3%、

50歳代51.5%で、年齢階層の若い方が若干多くなっていた。また、冷え性の中では、冬以外も冷える(強い冷え性)の人が20歳代に多く見られ、40歳代が最も少なかった。自律神経系愁訴の訴えが多い人(43項目中11項目以上)の割合は、50歳代が最も多いが有意差はみられなかった。医療機関受診率は20歳代14.0%、30歳代17.5%、40歳代25.1%、50歳代45.5%と年齢が上がるにつれて急激に高まっていた。月経周期は、20歳代に不順のものが多く、30歳代、40歳代は安定しており、50歳代では閉経を迎えた人が多くなっていた。月経前の不調および月経中の不調では、50歳代は閉経の人が多いため除外して集計した。その結果、月経前の不調では20歳代、30歳代、40歳代で大差は無かったが、月経中の不調は20歳代に最も多くみられた。

次に、自律神経的な不定愁訴43項目の年齢

表5 年齢階層別に見た主な身体的不調

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	(χ ² 検定)
a) 冷え性の有無	n=247	n=342	n=383	n=97	
1) 冷え性でない	84(34.0)	113(33.0)	175(45.7)	47(48.5)	p=0.0001***
2) 冬のみ冷える	84(34.0)	130(38.0)	136(35.5)	23(23.7)	
3) 冬以外も冷える	79(32.0)	99(28.9)	72(18.8)	27(27.8)	
b) 自律神経系愁訴	n=244	n=345	n=383	n=99	
1) 少ない	181(74.2)	262(75.9)	303(79.1)	68(68.7)	p=0.1459
2) 多い(11/43以上)	63(25.8)	83(24.1)	80(20.9)	31(31.3)	
c) 医療機関受診	n=250	n=354	n=399	n=99	
1) なし	215(86.0)	292(82.5)	299(74.9)	54(54.5)	p=0.0000***
2) あり(過去1年間)	35(14.0)	62(17.5)	100(25.1)	45(45.5)	
d) 月経周期	n=245	n=352	n=393	n=95	
1) 月経は順調	182(74.3)	289(82.1)	326(83.0)	15(15.8)	p=0.0000***
2) 月経が不順	59(24.1)	55(15.6)	44(11.2)	12(12.6)	
3) 月経がない	4(1.6)	89(2.3)	23(5.9)	68(71.6)	
e) 月経前の不調	n=233	n=324	n=334	集計せず*	
1) ひどい(休む・薬)	12(5.2)	26(8.0)	14(4.2)		p=0.1991
2) 軽い(我慢できる)	30(12.9)	49(15.1)	43(12.9)		
3) ない、普段と同じ	191(82.0)	249(76.9)	277(82.9)		
f) 月経中の不調	n=229	n=330	n=353	集計せず*	
1) ひどい(休む・薬)	89(38.9)	57(17.3)	35(9.9)		p=0.0000***
2) 軽い(我慢できる)	48(21.0)	57(17.3)	39(11.0)		
3) ない、普段と同じ	92(40.2)	216(65.5)	279(79.0)		

注) ***: p<0.001、数字は人数、()内は%を示す。

階層別集計を表6に示した。20歳代でもっとも多い訴えは、「手足の先が紫色になる」「はきけがあったりはいたり」「消化が悪くてこまる」「食事の後か空腹時に胃が痛む」「皮膚が敏感でまげやすい」「疲れてぐったりする」であった。一方、50歳代に多い訴えは、「い

つも耳なりがする」「動悸が打って気になる」「心臓が狂ったように早く打つ」「腕(うで)がだるい」「急に体があついがつめたい」「体にしびれや痛みがある」「体がカーとなって汗がでる」であった。

50歳代を除外した、月経前および月経中の

表6 自律神経的な不定愁訴43項目の年齢階層別集計

項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	p値 (χ^2 検定)
	n = 249	n = 353	n = 399	n = 99	
1) いつも耳鳴りがする	9(3.6)	12(3.4)	25(6.3)	17(17.2)	0.0000 ***
2) 心臓がしめつけられる感じ	51(20.6)	97(27.5)	85(21.2)	28(28.3)	0.0845 NS
3) 心臓が押さえつけられる感じ	36(14.6)	69(19.6)	43(10.7)	20(20.2)	0.0036 **
4) 動悸が打って気になる	17(6.8)	54(15.3)	83(20.9)	31(31.3)	0.0000 ***
5) 心臓が狂ったように早く打つ	7(2.8)	20(5.7)	20(5.0)	12(12.1)	0.0093 **
6) よく息苦しくなることがある	13(5.2)	23(6.5)	31(7.8)	7(7.1)	0.6473 NS
7) 人より息切れしやすい	44(17.7)	53(15.0)	70(17.5)	18(18.2)	0.7460 NS
8) すわっていても息切れする	5(2.0)	10(2.8)	12(3.0)	4(4.0)	0.7565 NS
9) 夏でも手足がひえる	31(12.6)	43(12.2)	38(9.5)	9(9.1)	0.5016 NS
10) 手足の先が紫色になる	40(16.1)	42(11.9)	15(3.8)	6(6.1)	0.0000 ***
11) いつも食欲がない	3(1.2)	7(2.0)	1(0.3)	2(2.0)	0.1391 NS
12) はきけがあったりはいたり	43(17.3)	39(11.1)	29(7.3)	6(6.1)	0.0003 ***
13) 胃の具合が悪くてこまる	50(20.1)	59(16.7)	49(12.3)	17(17.2)	0.0587 NS
14) 消化が悪くてこまる	33(13.3)	27(7.7)	28(7.0)	11(11.1)	0.0329 *
15) いつも胃の具合が悪い	26(10.4)	30(8.5)	22(5.5)	14(14.1)	0.0194 *
16) 食事の後か空腹時に胃が痛む	58(23.4)	53(15.0)	46(11.6)	9(9.1)	0.0002 ***
17) よく下痢(げり)をする	30(12.1)	27(7.7)	38(9.5)	6(6.1)	0.1988 NS
18) よく便秘(べんぴ)をする	91(36.6)	113(32.0)	125(31.4)	27(27.3)	0.3420 NS
19) 肩や首すじがこる	179(71.9)	249(70.5)	272(68.1)	69(69.7)	0.7642 NS
20) 足がだるい	84(33.7)	120(34.0)	151(37.8)	32(32.3)	0.1100 NS
21) 腕(うで)がだるい	36(14.5)	67(19.0)	100(25.1)	26(26.3)	0.0046 **
22) 皮膚が敏感でまげやすい	97(39.0)	102(28.9)	119(29.8)	34(34.3)	0.0416 *
23) 顔がひどく赤くなる	52(20.9)	61(17.3)	72(18.1)	23(23.2)	0.4506 NS
24) 冬でもひどく汗をかく	7(2.8)	14(4.0)	11(2.8)	6(6.1)	0.3649 NS
25) よく皮膚にじんましんがでる	40(16.1)	28(7.9)	36(9.0)	16(16.2)	0.0025 **
26) よくひどい頭痛がする	46(18.5)	74(21.0)	64(16.0)	28(28.3)	0.0351 *
27) いつも頭が重いか痛む	25(10.0)	42(11.9)	50(12.5)	19(19.2)	0.1340 NS
28) 急に体があついが冷たい	18(7.2)	21(6.0)	30(7.5)	23(23.2)	0.0000 ***
29) たびたびひどいめまいがする	29(11.7)	31(8.8)	29(7.3)	7(7.1)	0.2545 NS
30) 気が遠くなり倒れそうになる	17(6.9)	39(11.1)	40(10.0)	8(8.1)	0.3385 NS
31) 今まで2回以上気を失った	17(6.8)	26(7.4)	24(6.0)	11(11.1)	0.3631 NS
32) 体にしびれや痛みがある	23(9.2)	53(15.0)	101(25.4)	45(45.5)	0.0000 ***
33) 手足がふるえることがある	19(7.6)	35(9.9)	32(8.0)	9(9.1)	0.7407 NS
34) 体がカーとなって汗がでる	25(10.0)	51(14.5)	41(10.3)	29(29.3)	0.0000 ***
35) 疲れてぐったりする	131(52.6)	183(51.8)	174(43.6)	33(33.3)	0.0013 **
36) 特に夏になると体がだるい	69(27.7)	103(29.1)	119(29.9)	28(28.3)	0.9438 NS
37) 仕事をするとき疲れきる	79(31.7)	86(24.3)	106(26.6)	26(26.3)	0.2419 NS
38) 朝起きるといつも疲れている	45(18.2)	55(15.6)	63(15.8)	12(12.1)	0.5693 NS
39) 少し仕事をしただけで疲れる	25(10.0)	49(13.9)	56(14.0)	20(20.2)	0.0925 NS
40) 食事ができないほど疲れる	11(4.4)	12(3.4)	8(2.0)	4(4.0)	0.3455 NS
41) 気候の変化で調子かわる	92(37.0)	132(37.4)	122(30.6)	29(29.3)	0.1206 NS
42) 特異体質と医者に言われた	10(4.0)	6(1.7)	18(4.5)	2(2.0)	0.1320 NS
43) 乗り物による	72(28.9)	119(33.6)	121(30.3)	24(24.2)	0.2918 NS

注) *:p<0.05、 **:p<0.01、 ***:p<0.001、 数字は人数、 ()内は%を示す。

長崎県内の女性の身体的不調

の不調18項目の年齢階層別集計を表7、表8に示した。月経前の不調では、「にきびなどが増える」「食欲が増す」が20歳代に、「不機嫌、いらいら」が30歳代に、「乳房が張る、

痛む」が40歳代にそれぞれ多くなっていた。一方、月経中の不調では、ほとんどの項目で差が見られ、ほとんどの項目でも20歳代が多くなっていた。

表7 月経前の不調 18 項目の年齢階層別集計 (50歳代を除く)

項目	20歳代	30歳代	40歳代	p値 (χ ² 検定)
	n =246	n =342	n =375	
1) 頭痛、頭が重い	32(13.0)	69(20.2)	61(16.3)	0.0677 NS
2) めまいがおきる	10(4.1)	9(2.6)	6(1.6)	0.1680 NS
3) にきびなどが増える	73(29.7)	64(18.7)	33(8.8)	0.0000 ***
4) 乳房が張る、痛む	123(50.0)	173(50.6)	230(61.3)	0.0370 *
5) お腹が張る	77(31.3)	108(31.6)	108(28.8)	0.6805 NS
6) 胃が痛む	160(65.0)	140(40.9)	150(40.0)	0.2885 NS
7) 下腹部が痛む	76(30.9)	101(29.5)	89(23.7)	0.0919 NS
8) 下痢になる	27(11.0)	29(8.5)	38(10.1)	0.0976 NS
9) 便秘になる	27(11.0)	39(11.4)	36(9.6)	0.7175 NS
10) 食欲が増す	40(16.3)	29(8.5)	27(7.2)	0.0006 ***
11) 食欲がなくなる	7(2.9)	9(2.6)	6(1.6)	0.5181 NS
12) 身体がむくむ	13(5.3)	18(5.3)	18(4.8)	0.9486 NS
13) 手や足の関節が痛む	7(2.9)	14(4.1)	8(2.1)	0.3042 NS
14) 不機嫌、いらいら	78(31.7)	151(44.2)	138(36.8)	0.0072 **
15) やたら眠くなる	42(17.1)	48(14.0)	58(15.5)	0.6013 NS
16) 眠れなくなる	3(1.2)	6(1.8)	5(1.3)	0.8408 NS
17) 疲れやすくなる	28(11.4)	53(15.5)	42(11.2)	0.1709 NS
18) 考えがまとまらない	5(1.9)	4(1.1)	20(5.3)	0.7371 NS

注) *:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001、数字は人数、()内は%を示す。

表8 月経中の不調 18 項目の年齢階層別集計 (50歳代を除く)

項目	20歳代	30歳代	40歳代	p値 (χ ² 検定)
	n =246	n =341	n =373	
1) 頭痛、頭が重い	31(12.6)	40(11.7)	35(9.4)	0.4037 NS
2) めまいがおきる	25(10.2)	21(6.2)	18(4.8)	0.0301 *
3) にきびなどが増える	34(13.8)	15(4.4)	5(1.3)	0.0000 ***
4) 乳房が張る、痛む	31(12.6)	16(4.7)	21(5.6)	0.0004 ***
5) お腹が張る	69(28.1)	65(19.1)	57(15.3)	0.0004 ***
6) 胃が痛む	19(7.7)	4(1.2)	4(1.1)	0.0000 ***
7) 下腹部が痛む	152(61.8)	137(40.2)	86(23.1)	0.0000 ***
8) 下痢になる	62(25.2)	60(17.6)	40(10.7)	0.0000 ***
9) 便秘になる	19(7.7)	11(3.2)	9(2.4)	0.0029 **
10) 食欲が増す	14(5.7)	9(2.6)	3(0.8)	0.0012 **
11) 食欲がなくなる	38(15.5)	24(7.0)	14(3.8)	0.0000 ***
12) 身体がむくむ	19(7.7)	10(2.9)	11(3.0)	0.0052 **
13) 手や足の関節が痛む	7(2.9)	6(1.8)	4(1.1)	0.2625 NS
14) 不機嫌、いらいら	66(26.8)	65(19.1)	47(12.6)	0.0000 ***
15) やたら眠くなる	47(19.1)	59(17.3)	50(13.4)	0.1377 NS
16) 眠れなくなる	10(4.1)	6(1.8)	3(0.8)	0.0160 *
17) 疲れやすくなる	57(23.2)	59(17.3)	47(12.6)	0.0027 **
18) 考えがまとまらない	21(8.5)	20(5.9)	18(4.8)	0.1648 NS

注) *:p<0.05、**:p<0.01、***:p<0.001、数字は人数、()内は%を示す。

表9 冷え性者の冷える場所（複数回答）（年齢階層別の冷え性者に限定して集計）

項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	p値 (χ^2 検定)
	n =165	n =232	n =213	n = 51	
1) 手	87(52.7)	102(44.0)	84(39.4)	20(39.2)	0.0619 NS
2) 腕	7(4.2)	3(1.3)	12(5.6)	7(13.7)	0.0008 ***
3) 足 (足首より下)	151(91.5)	202(87.1)	183(85.9)	41(80.4)	0.1571 NS
4) 脚 (足首より上)	23(13.9)	25(10.8)	21(9.9)	9(17.7)	0.3345 NS
5) 腹	8(4.9)	16(6.9)	11(5.2)	6(11.8)	0.2828 NS
6) 腰	35(21.2)	90(38.8)	74(34.7)	26(51.0)	0.0001 ***
7) 肩	24(14.6)	38(16.4)	35(16.4)	14(27.5)	0.1884 NS
8) その他	4(2.4)	3(1.3)	4(1.9)	4(7.8)	0.0399 *

注) *:p<0.05、 **:p<0.01、 ***:p<0.001、 数字は人数、 () 内は%を示す。

表10 過去1年以内の医療機関受診状況（複数回答）（年齢階層別集計）

項目	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	p値 (χ^2 検定)
	n =250	n =345	n =399	n = 99	
1) 心臓病	1(0.4)	3(0.9)	5(1.3)	9(9.1)	0.0000 ***
2) 糖尿病	0(0.0)	2(0.6)	6(1.5)	2(2.0)	0.1278 NS
3) 高血圧	0(0.0)	6(1.7)	18(4.5)	22(22.2)	0.0000 ***
4) 甲状腺の病気	1(0.4)	6(1.7)	7(1.8)	1(1.0)	0.4647 NS
5) 自律神経失調症	2(0.8)	7(2.0)	15(3.8)	7(7.1)	0.0058 **
6) 産婦人科の病気	14(5.6)	19(5.4)	31(7.8)	10(10.1)	0.2575 NS
7) その他	17(6.8)	23(6.8)	32(8.0)	8(8.1)	0.8921 NS

注) *:p<0.05、 **:p<0.01、 ***:p<0.001、 数字は人数、 () 内は%を示す。

年齢階層別の、冷え性者に限定して集計した冷える場所（複数回答）を表9に示した。冷え性は対象者全体の半分以上に認められたが、その冷える場所をみると、腕や腰が冷える人が50歳代に多くなっていた。

過去1年以内の医療機関受診状況（複数回答）を表10に示した。心臓病・高血圧・自律神経失調症で受診した人が50歳代に多くなっていた。そのうち高血圧は、50歳代で22%と急増していた。

IV 考察

本研究は、年齢階層間の女性の身体的不調の違いを明らかにし、女性の健康問題を考える上での有用な資料とすることを目的としている。婦人の月経困難症や不定愁訴と年齢と

の関係については多くの報告^{2,3,4,5)}がある。本研究でも、年代ごとの身体的不調の違いがいくつか見られた。

冷え性の訴えは対象者全体の半分以上に見られたが、その割合は若い年代ほど多いという特徴があった。また、その冷える場所をみると、50歳代に腕や腰が冷える人が多くなっていた。

自律神経系愁訴の訴えが多い人の割合では年代ごとの違いは認められなかった。しかし、これらの自律神経的な愁訴の内容を見ると、20歳代の愁訴が「手足の先が紫色になる」「はきけがあったりはいたり」「消化が悪くてこまる」「食事の後か空腹時に胃が痛む」「皮膚が敏感でまげやすい」「疲れてぐったりする」といった消化器系と全身の疲れであるの

に対して、40歳代、50歳代のそれは「いつも耳なりがする」「動悸が打って気になる」「心臓が狂ったように早く打つ」「腕（うで）がだるい」「急に体があついがつめたい」「体にしびれや痛みがある」「体がカーとなって汗がでる」といった更年期に特徴的な愁訴を多く含んでおり、年代別の訴えには質的な違いがみられた。

月経周期は、20歳代に不順のものが多く、30歳代、40歳代は安定しており、50歳代では閉経を迎えた人が多くなっていた。月経前の不調では年代ごとの違いは見られなかったが、月経中の不調は20歳代に最も多いという特徴があった。また、月経前の不調の内容を見ると、20歳代に「にきびなどが増える」「食欲が増す」が多く、30歳代に「不機嫌、いらいら」が、40歳代に「乳房が張る、痛む」がそれぞれ多くなっており、年代別にやや特徴がみられた。一方、月経中の不調では、ほとんどの項目で訴え率に差が見られ、ほぼ全項目で20歳代が高くなっていた。この結果には、20歳代に結婚している割合と子供のある人の割合が低く、職業で常勤の割合が高いことが関係していると考えられた。

文 献

- 1) 大石和代, 宮市和子, 加藤奈智子, 古田真司: 長崎県内の女性の身体的不調に関する調査 - (その1) 地域差について - 長崎大医療技短大紀6: 1-8, 1992.
- 2) 阿部達夫, 筒井味春: 自律神経失調症 - 不定愁訴症候群を中心として - 金原出版株式会社, 1968.
- 3) 島尻貞子, 平良恵子, 仲村美津江, 竹中静広, 河野伸造: 月経随伴症状の日内変化 - 勤労婦人・大学生・思春期女子間での比較 - 母性衛生, 29: 66-72, 1988.
- 4) 大久保博美: 婦人の不定愁訴のクーパーマンの更年期指数による評価. 社会精神医学, 14: 320-327, 1991.
- 5) 北島正子, 古田真司, 矢野敦子, 古田加代子, 大石和代, 加藤奈智子, 松岡知子, 齊藤早苗, 鈴木ふみえ, 流石ゆり子, 宮尾克: 女性の身体不調と不定愁訴に関する検討 - 20代, 30代を中心に - (会議録). 日本公衆衛生雑誌, 39特別付録: 136, 1992.

Investigation on Physical Problems in Women
in Nagasaki Prefecture
— (2) Differences of Age-Groups —

Kazuyo OISHI¹, Kazuko MIYAICHI¹, Nachiko KATO¹,
and Masashi FURUTA²

1 Advanced course for Midwifery, Associate degree of Nagasaki University

2 Aichi University of Education

Abstract We investigated recognition of "feeling of cold" and unidentified clinical problems due mainly to autonomic symptoms as well as those accompanying the menstrual cycle in 1102 women in their 20 s, 30 s, 40 s, and 50 s, using a self-entering questionnaire (unsigned). The results were compared by each age-groups, and the following results were obtained. The recognition of "feeling of cold", the number of visiting a hospital, the menstrual cycle, and the problems during menstrual period were different. While, the recognition of unidentified clinical problems due mainly to autonomic symptoms was not different, but the contents of a recognition were largely different.

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 7 : 69--76, 1993